

診療情報及び診療時に採取・保管された検体を用いた研究に関するお知らせ

愛知県がんセンター

愛知県がんセンターでの診療情報および診療時に採取・保管された検体を下記の研究に用いることになりましたのでお知らせします。

記

1. 研究責任者	木下朝博
2. 研究課題名	新規疾患; TAFRO症候群の疾患概念確立のための多施設共同後方視的研究
3. 研究の概要	<p>目的; 多中心性Castleman病(MCD)は高γ グロブリン血症、強い炎症反応、貧血および血小板増多などを特徴とする多クローン性のリンパ増殖性疾患(LPD)である。欧米のMCDはHIV感染者にHHV-8感染も関連して発症する。一方、本邦のMCDではHIV感染やHHV-8感染は稀であり、この事から欧米と本邦のMCDは異なった疾患と考えられる。しかし、IL6過剰産生に基づく強い炎症所見は欧米および本邦のMCDに共通した所見である。</p> <p>2010年に高井らは、TAFRO症候群(thrombocytopenia, anasarca, fever, reticulin fibrosis, organomegaly)という概念を報告した。また、2011年にKojimaらは、胸腹水と血小板減少を併発した本邦のMCD患者を報告した(Castleman-Kojima disease)。これらの症例は典型的なMCDやPOEMS症候群(polyneuropathy, organomegaly, endocrinopathy, M protein, and skin changes)、リンパ腫およびSLEなどの自己免疫性疾患との鑑別が重要である。</p> <p>TAFRO症候群に関しては、まだ新しい概念であるため、その発生率、症候、臨床経過(治療反応も含む)などまだ不明な点も多い。そこで、今回はまず本邦におけるTAFRO症候群の発症につき、全国的に一次アンケート調査を行い、その後に協力の得られる施設から後方視的にデータを収集する。</p> <p>研究期間: 平成25年9月から平成29年12月31日 (遺伝子解析: ②行わない)</p>
4. 使用する診療情報	診療情報内容(血液検査、病理診断など) 対象収集期間 平成25年9月1日～平成29年12月31日
5. 使用する検体	検体名() 検体採取時期 平成 年 月 日～平成 年 月 日
6. 病名	TAFRO症候群、Castleman病

- ① この研究の科学的妥当性と倫理性は、当院の倫理審査委員会、遺伝子解析研究倫理審査委員会などにおいて厳重に審査され、承認されています。
個人情報の安全保護については、万全の体制下にて管理され実施されます。
また、調査項目は既存のデータであり、何らかの負担を生じることはありません。
- ② 具体的な研究内容を知りたい、あるいは、今回の研究に用いることを拒否したい場合には下記の問い合わせ窓口までご連絡下さい。

★お問い合わせ★

愛知県がんセンター管理課 会計グループ
倫理審査委員会事務局
住所 : 〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号
FAX : (052-764-2963)
e-mail: irb@aichi-cc.jp

(お問い合わせは、FAX、e-mail 又は郵送でお願いいたします。)